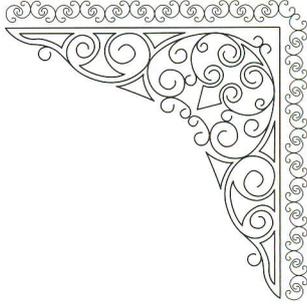
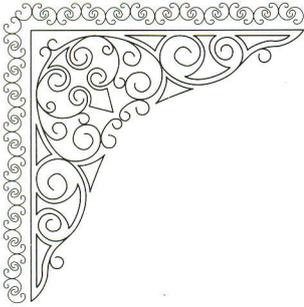




神戸大学交響楽団
第56回定期演奏会





PROGRAM

神戸大学交響楽団 第56回定期演奏会

Kobe University Symphony Orchestra 56th Regular Concert

「コリオラン」序曲 作品62
Coriolan Overture Op.62

ベートーヴェン
Ludwig van Beethoven

指揮 河合 悠 吾
コンサートミストレス 木村 藍

チェロ協奏曲 口短調 作品104
Concerto for Cello in B minor Op.104

ドヴォルジャーク
Antonin Dvorak

I. Allegro
II. Adagio ma non troppo
III. Finale, Allegro moderato

チェロ独奏 林 裕
指揮 奥田 恵悟
コンサートマスター 小田川泰彦

交響曲第5番 変ロ長調 作品100
Symphony No.5 in B-flat-major Op.100

プロコフィエフ
Sergei Prokofiev

I. Andante
II. Allegro marcato
III. Adagio
IV. Allegro giocoso

指揮 奥田 恵悟
コンサートミストレス 森 直子



2006年12月10日(日) 午後 6 時30分開演

兵庫県立芸術文化センター大ホール

共催＝兵庫県オーケストラ協議会 後援＝兵庫県・神戸市民文化復興財団・神戸新聞社



客演指揮 奥田 恵悟 (おくだ けいご)

1976年6月生まれ。小学生時代は野球を中心としたスポーツ少年だったが、中学時より吹奏楽部に入り、音楽家を志すようになる。

東京音楽大学音楽学部器楽科卒業後、東京音楽大学指揮研究生修了。指揮を広上淳一、汐澤安彦、三石精一、土田政昭の各氏に師事。またピアノ、音楽理論を広瀬宣行、伊藤節子、トランペットを林昭世、大関民弘の各氏に師事。

2000年にルーマニア、トルグムレッシュで開催されたコンダクターアカデミーにおいて代表者に選ばれ、トルグムレッシュ国立オーケストラにて、ベートーヴェン交響曲第7番を指揮し喝采を浴びる。

2003年、2004年と、イタリア、シエナのキジアーナ音楽院で指揮をジャンルイージ・ジェルメッティ氏に師事し、オペラやシンフォニーなどを学ぶ。その結果、いずれの年も実力を高く評価され、ファイナルコンサートの指揮者に選ばれる。

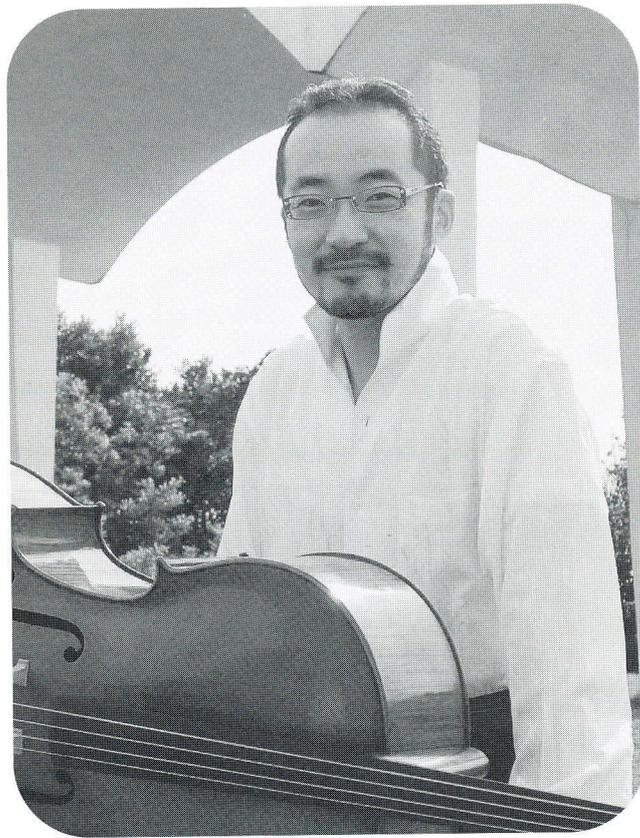
コンクールの分野では、2003年11月に行われた東京国際音楽コンクール指揮者部門にて入選。2005年4月にはデンマークで開催された、ニコライ・マルコ指揮者コンクールにて3位に入賞している。

これまでに、山形交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、オーデンセ・シンフォニーオーケストラ（デンマーク）などを指揮している。

※トレーナーの先生方※

ギオルギ・バブアゼ (関西フィルハーモニー管弦楽団 コンサートマスター)
宮村 聡 (京都市交響楽団 首席トランペット奏者)
村瀬 司 (大阪シンフォニカー交響楽団 首席クラリネット奏者)

以上の先生方にご指導頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。



チェロ独奏 林 裕 (はやし ゆたか)

1969年岐阜生まれ。名古屋市立菊里高等学校音楽科を経て、東京藝術大学音楽学部を卒業。1992年第52回日本演奏連盟新人演奏会で名古屋フィルと共演、好評を博し、日本演奏連盟賞、中日賞を受賞。また、北九州国際音楽祭で韓国のトップ・オーケストラである、KBS交響楽団(指揮=オッコ・カム)とも共演。また、スカラシップを得て、アメリカのアспен音楽祭に参加。その他皇居内桃華楽堂で御前演奏も行う。

1993年大阪フィルハーモニー交響楽団首席チェロ奏者に就任。(～96年) 同年に開かれた、第62回日本音楽コンクールで第一位・黒柳賞を、さらに読売新人音楽賞も受賞し、一躍注目を集めた。これを契機に、名古屋国際室内楽フェスティバルや『大垣の春』音楽祭、ABCフレッシュ・コンサートなどにソリストとして招かれるほか、NHK-FM、BS、BSデジタル、朝日放送、中部日本放送などでその演奏が放送されるなど活発な演奏活動を展開。

協奏曲のソリストとしての起用も数多く、これまでに東京交響楽団、東京シティ・フィル、名古屋フィル、セントラル愛知響、大阪フィル、大阪センチュリー響、関西フィル、トランシルバニア室内管弦楽団などと共演しているが、中でも、1994年朝比奈隆指揮=大阪フィル定期演奏会における、ドヴォルザーク:チェロ協奏曲の演奏は絶賛を博した。

1996年アフィニス文化財団及びローム・ミュージック・ファンデーションの奨学生に選ばれ、ドイツ・フライブルク音楽大学大学院に二年間留学し、首席修了。1998年 A. タンスマン国際音楽コンクールでファイナリストとなりデュプロマを取得。1999年以後は青山音楽賞、ブルーメール賞、松方ホール音楽賞大賞、坂井時忠音楽賞、兵庫県芸術奨励賞、名古屋市民芸術祭審査員特別賞、神戸市文化奨励賞、神戸灘ライオンズクラブ音楽賞などを受賞している。

チェロを林良一、堀江泰氏、三木敬之、R. フラシヨ、B. ベルガメンシコフ、C. ヘンケルの各氏に師事するほか、音楽祭などを通じて、D. フィンケル、A. ノラス、K. ゲオルギアンらの薫陶も受けている。近年は、いずみシンフォニエッタ大阪、ピアノ・クワルテット“Opus1”のメンバーとしての活動も注目されており、一層充実した演奏活動が期待されている。

現在、神戸女学院大学、相愛大学非常勤講師。日本チャップリン協会会員。